

No. 4

近畿地方整備局
事業評価監視委員会
(平成15年度第7回)

姫路港広畑地区 多目的国際ターミナル整備事業

平成16年3月2日

近畿地方整備局

目次

1.	姫路港の概要1
	● 港の役割	
	● 取扱貨物	
2.	対象事業の概要2
	● 整備目的	
	● 評価対象施設の概要	
	● 事業の主な経緯	
	● 再評価に至る経緯	
	● 事業の進捗状況	
3.	事業の必要性5
①	社会経済情勢の変化5
	● 姫路港背後圏の製造業の動向	
	● 取扱貨物量の動向	
	● 背後産業の動向(近年の新たな動き)	
	● 現有施設の不具合の状況	
	● 社会経済情勢のまとめ	
②	事業の投資効果10
	● プロジェクトと便益項目の抽出	
	● 事業効果と便益項目	
	● 需要の推計及び便益の計測	
	● 費用対効果分析結果	
4.	今後の事業進捗の見込み16
5.	コスト縮減・代替案の検討16
6.	対応方針(原案)17

1. 姫路港の概要



位置図



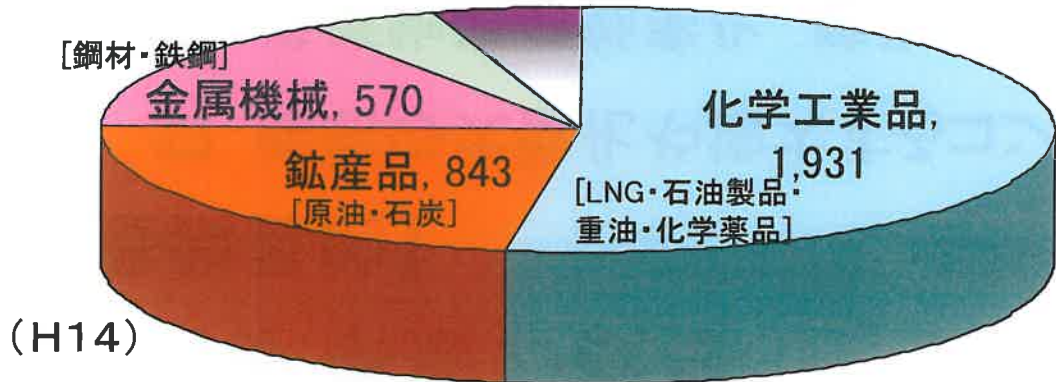
【港の役割】

- 鉄鋼・エネルギー等、我が国を支える工業基地港
- 播磨地域の物流・人流拠点として地域経済を支える港湾

【取扱貨物】

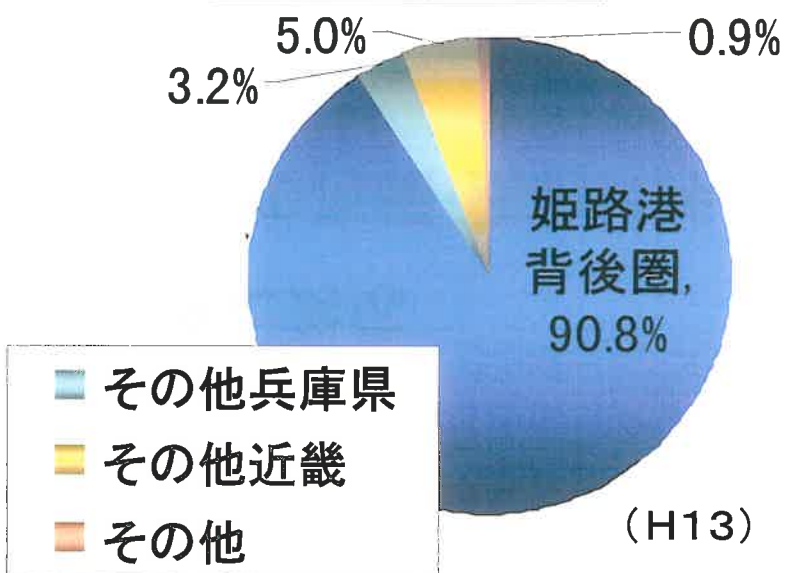
(単位:万トン)

特殊品, 164 その他, 180 合計: 3,688



(H14)

出典:平成14年兵庫県港湾統計年報 兵庫県



(H13)

出典:H13陸上出入貨物調査 国土交通省

2. 対象事業の概要

【整備目的】

- 船舶の大型化や増大するコンテナ貨物に対応
- 港湾物流の効率化、臨海部の生産拠点の再編・集約に伴う新たな産業立地への対応

【評価対象施設の概要】

	施設名	事業期間	数量
直轄	岸壁(-14m)	H6~H12	280m
	泊地(-14m)	H10~H19	320千m ²
補助	道路	H8~H17	1,640m
起債	ふ頭用地 荷役機械 等	H8~H16	3.4ha

【評価対象施設の概要】



【事業の主な経緯】

平成5年	港湾計画(改訂)
平成6年	事業着手
平成12年	岸壁部整備完了
(平成15年	網干沖地区廃棄物埋立護岸着手)

【再評価に至る経緯】

10年継続事業として今回再評価を行うものである。

【事業の進捗状況】

● 平成15年度末の事業進捗状況

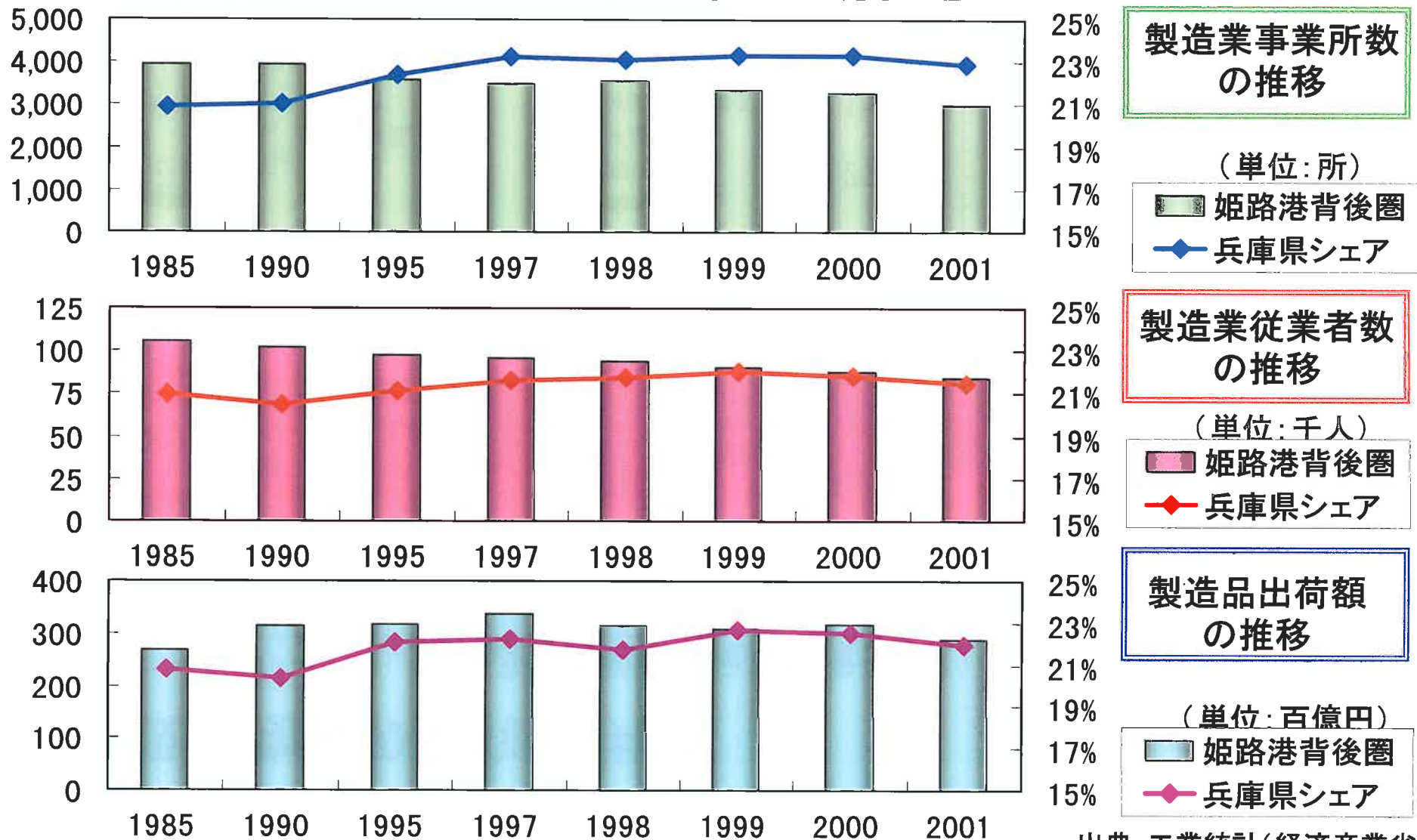
単位：億円

区分	施設名	事業期間	事業費	既投資額	進捗率
係留施設	岸壁(-14m)	H6~H12	44	44	100%
水域施設	泊地(-14m)	H10~H19	25	6	22%
臨港交通施設	道路	H8~H17	9	9	97%
その他	荷役機械 ふ頭用地 等	H8~H16	34	29	85%
合 計		H6~H19	112	87	78%

3. 事業の必要性

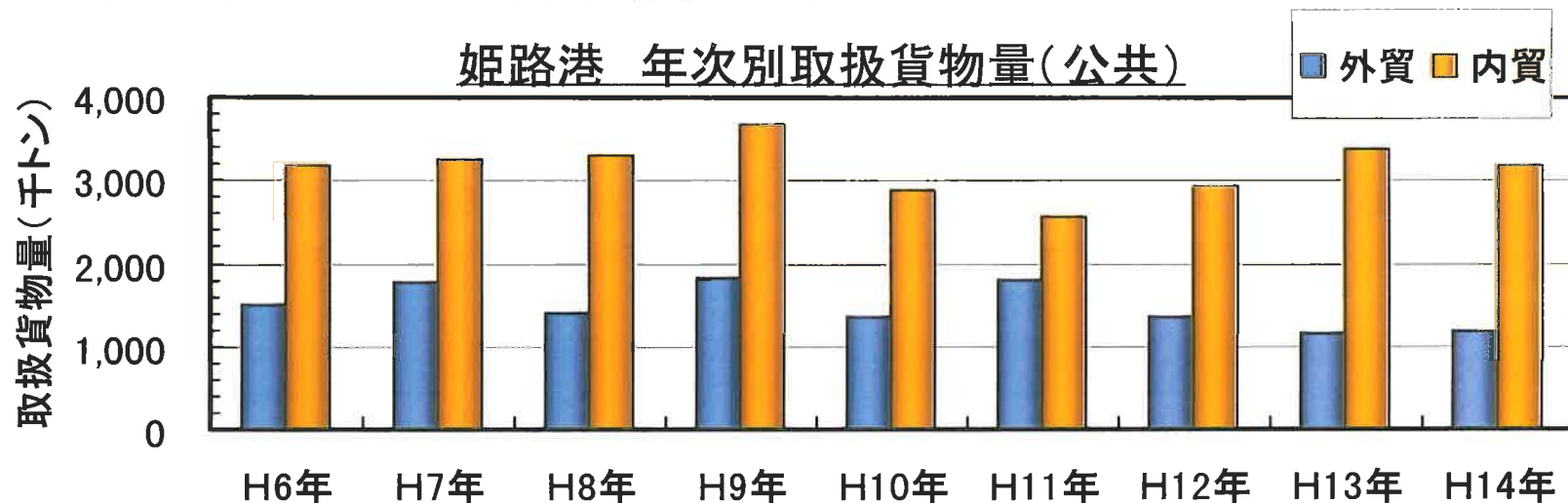
① 社会経済情勢の変化

【姫路港背後圏の製造業の動向】

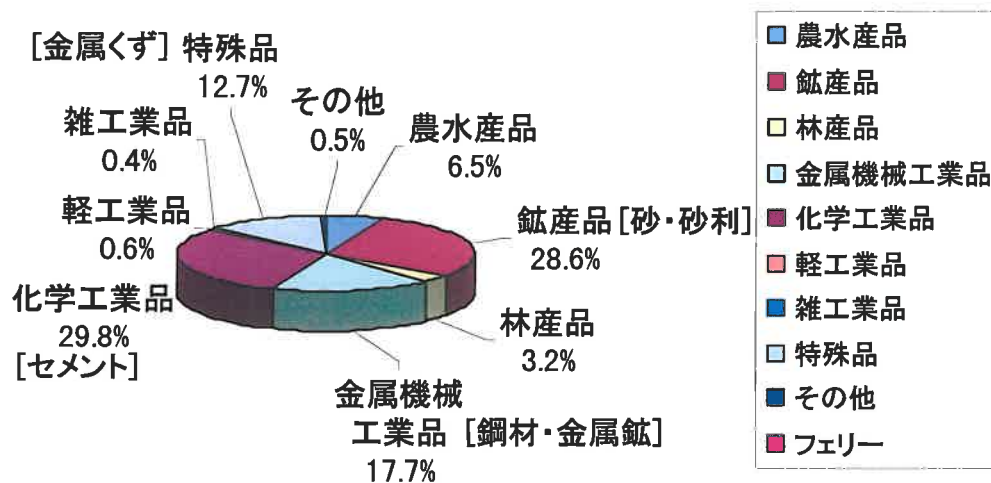


出典: 工業統計(経済産業省)

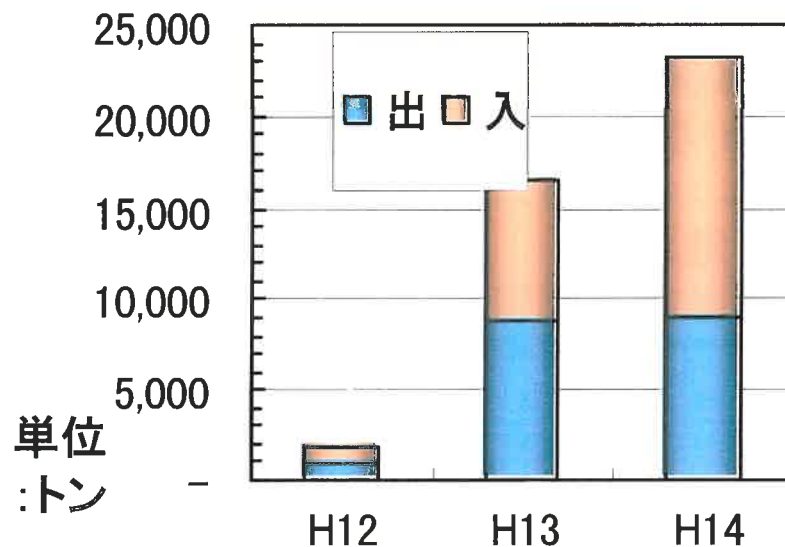
【取扱貨物量の動向(公共)】



平成14年 姫路港 取扱貨物(公共)



コンテナ取扱貨物



出典: 兵庫県港湾統計年報

【背後産業の動向(近年の新たな動き)】

- 環境・リサイクル経済特区の認定(H15/4)
- リサイクルポート[総合静脈物流拠点港の指定] (H15/ 4)
- ひょうごエコタウン構想[広域リサイクル拠点整備構想の承認] (H15/ 4)
- 新たな進出企業の動き(自動車関連産業等)



リサイクルポートの今後の展開

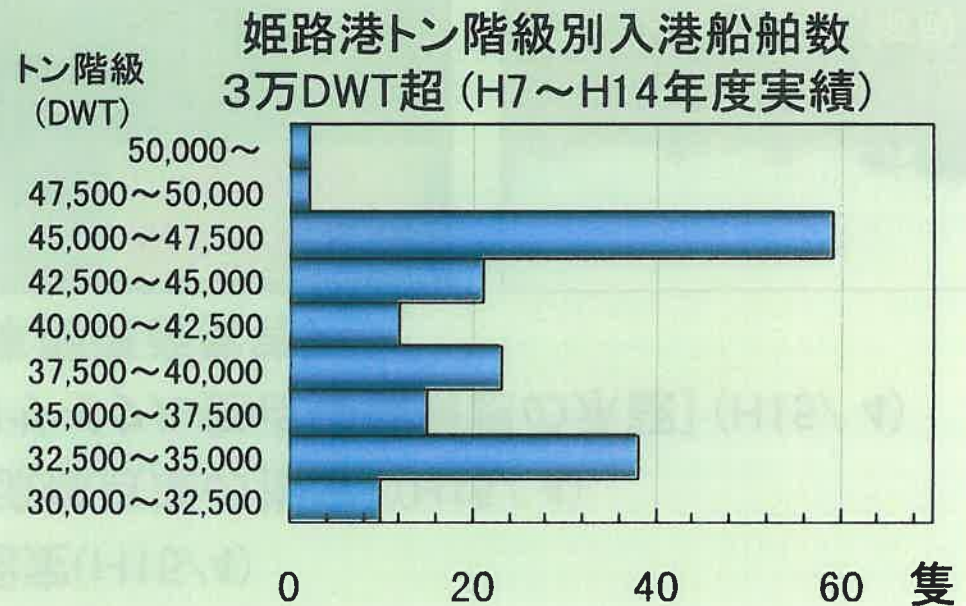
- ・廃プラスチックリサイクル施設
- ・廃自動車リサイクル施設

【現有施設の不具合の状況】



喫水調整

姫路港における既存施設の最大水深は-12m(3万DWT級)である。それ以上の船舶が年間約20隻程度、喫水調整により入港する等のコスト高を招いている。



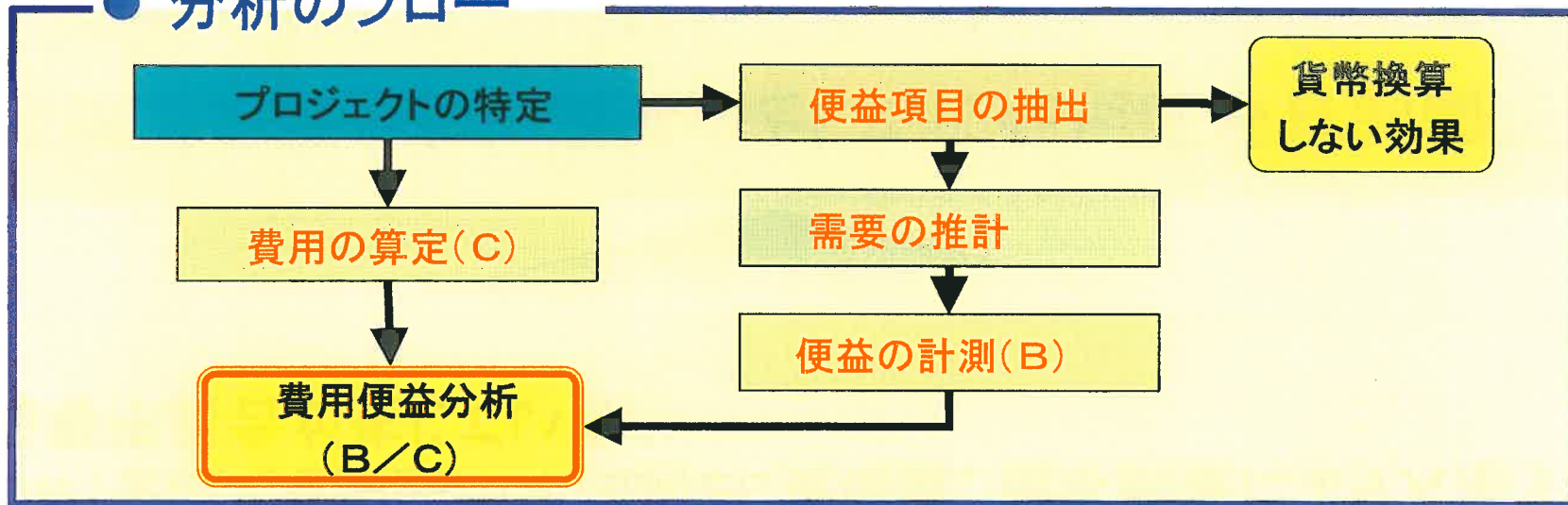
【社会経済情勢のまとめ】

- 姫路港の背後圏は、兵庫県の製造業において2割のシェアをしめており、取扱貨物量は、同程度で推移している。
- 姫路港において環境・リサイクル経済特区指定の動きやターミナル背後用地の企業進出等、新たな動きが出てきている。
- 既存施設の最大水深は-12m(3万DWT級)であるが、3万DWTを超える船舶が年間約20隻程度、喫水調整により入港する等不具合が生じている。

姫路港の新たな物流拠点として広畑地区多目的国際ターミナルの重要性は変わらず、整備の必要性は高い。

②事業の投資効果

●分析のフロー



【プロジェクトと便益項目の抽出】

多目的国際ターミナル整備プロジェクト

《物流に資する効果》

- 輸送距離・時間の短縮
- 船舶の大型化

《その他の効果》

- ターミナルの混雑緩和
- 輸送信頼性の向上
- 排出ガス・騒音等の減少

貨幣換算

【事業効果による便益計測】

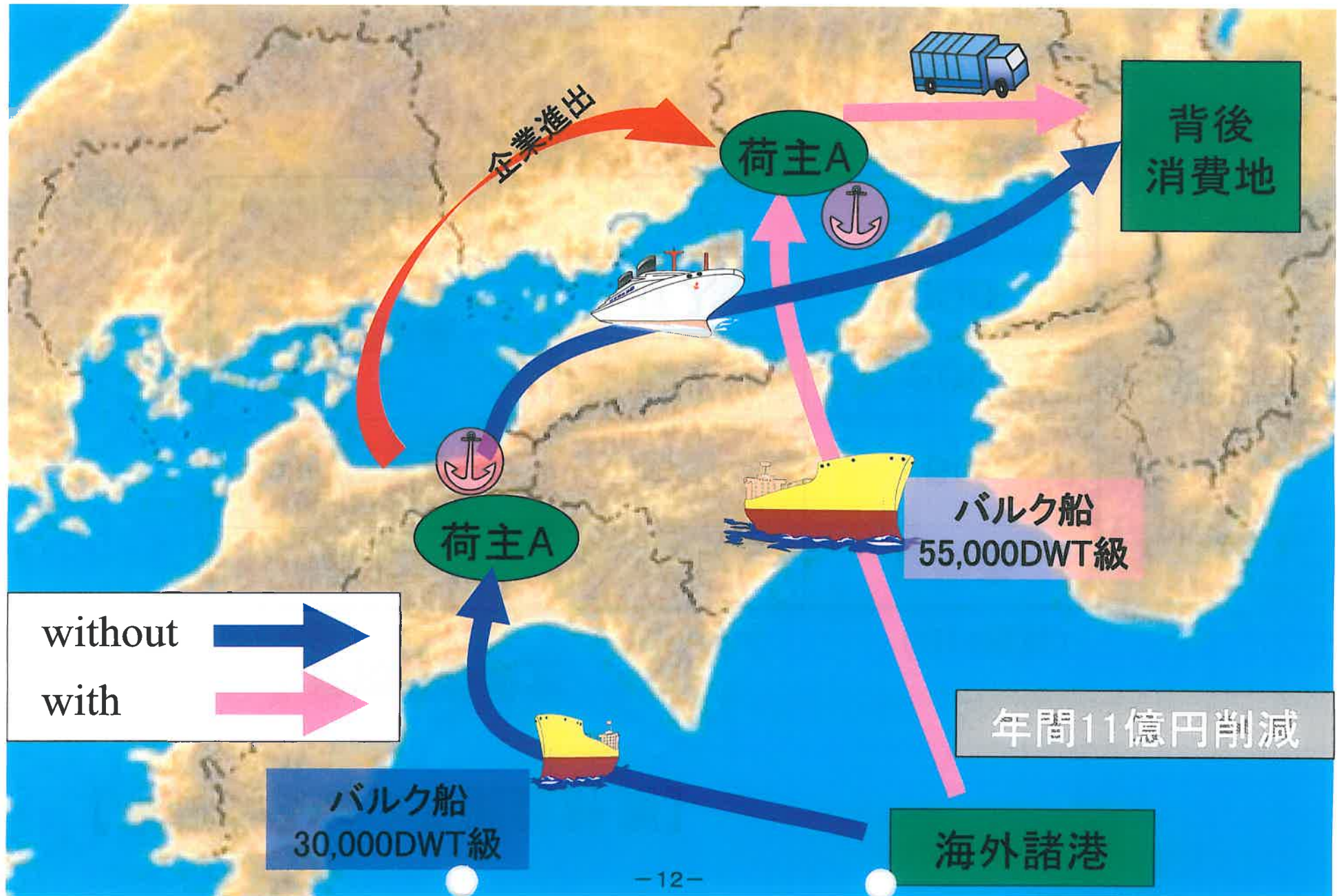
対象貨物量の設定

(H19推計)

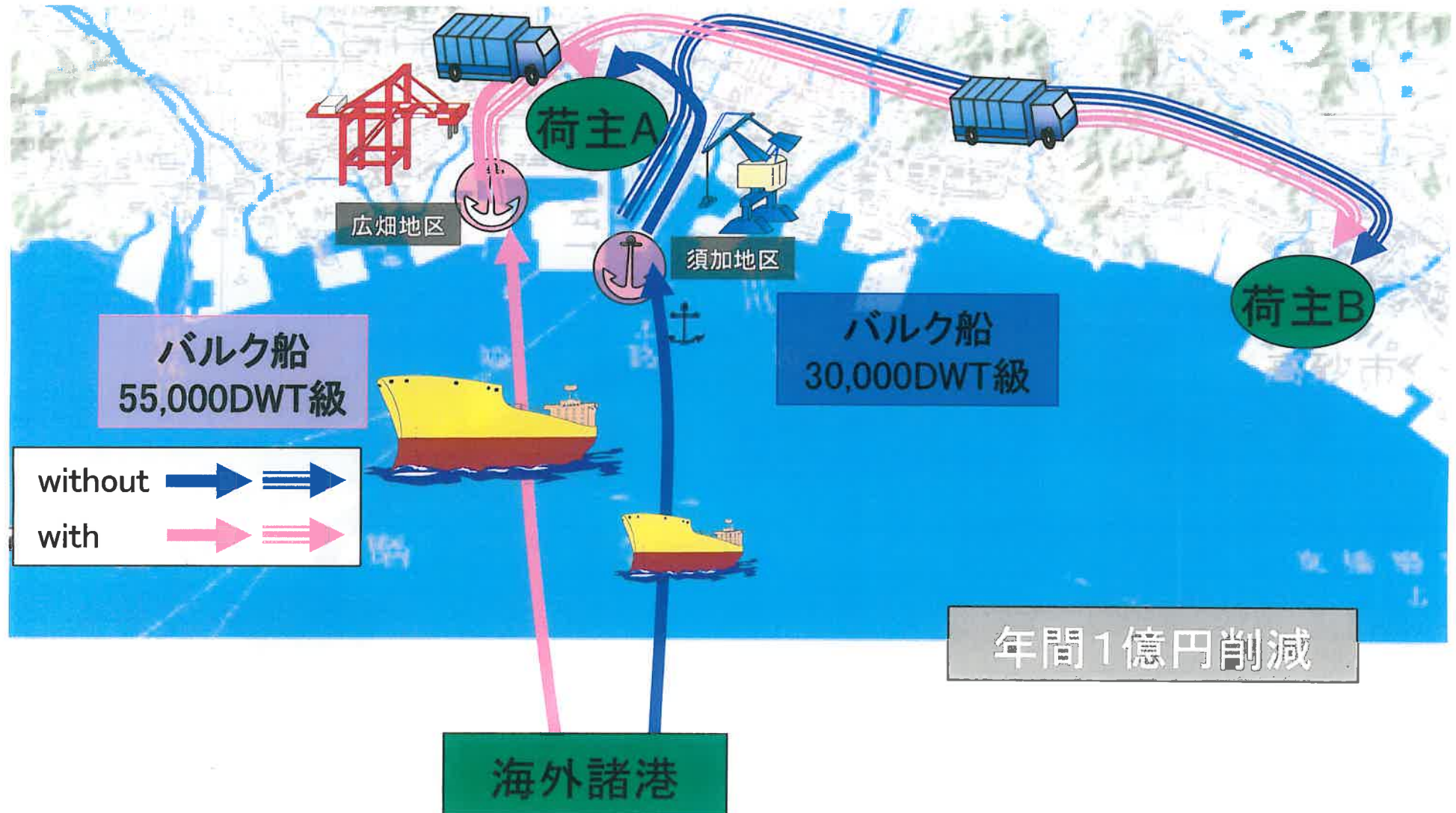
単位:	千トン	貨物量
金属機械 (コンテナ)	移出	63
鋳産品	輸入	300
	移入	200
合計		563

※実績及び主要企業へのヒアリングを行い設定

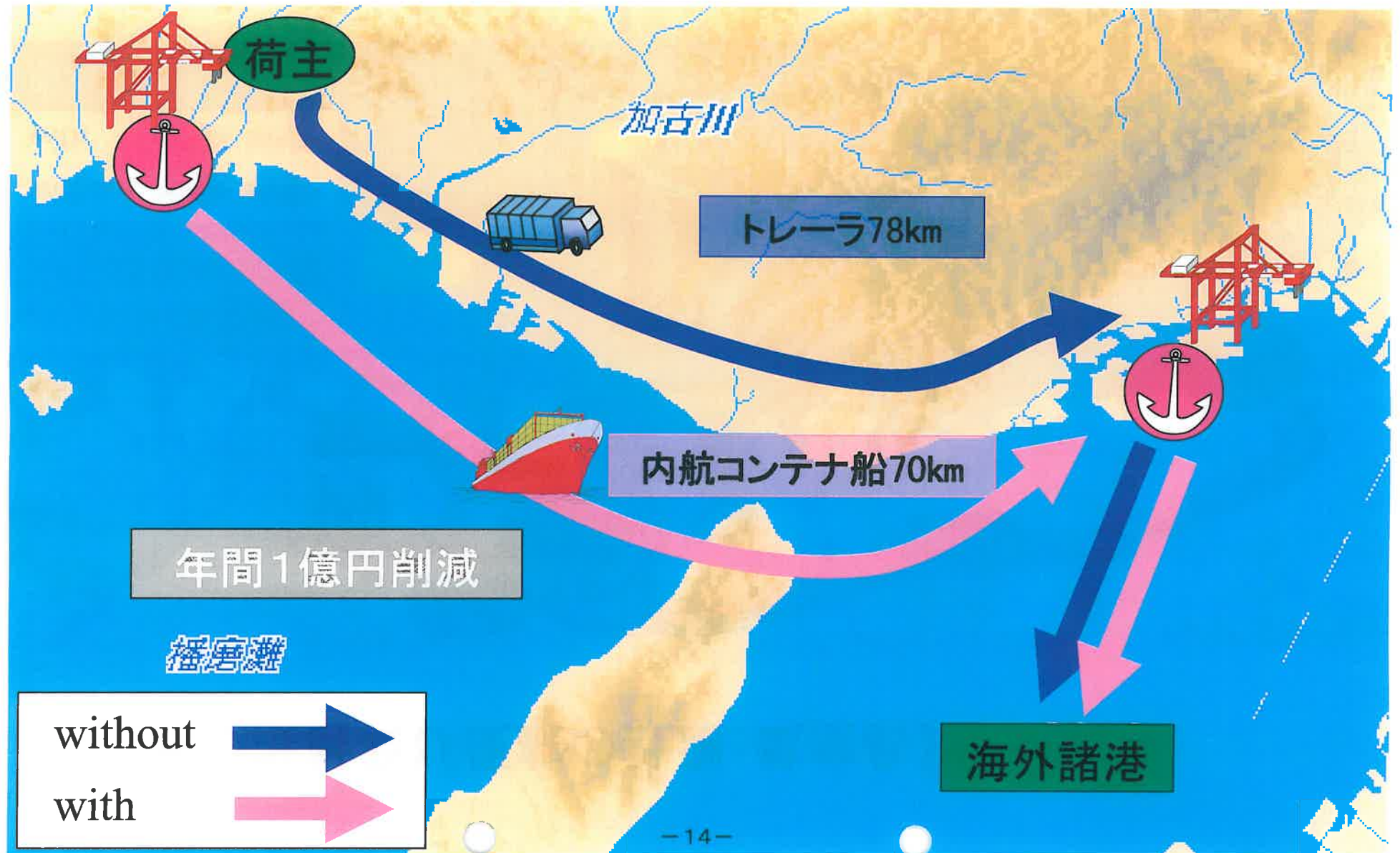
【需要の推計及び便益の計測：鈇産品】



【需要の推計及び便益の計測：鉍産品】



【需要の推計及び便益の計測：金属機械(コンテナ)】



【費用対効果分析結果】

● 費用の算定

プロジェクトの総費用	112億円
既投資額(H15年度末)	87億円
進捗率	78%

● 便益の算定(年間)

輸送コスト削減便益	11億円
船舶大型化による便益	2億円

● 費用対効果分析結果

	現在価値換算後
便 益(B)	226億円
費 用(C)	130億円
費用対便益(B/C)	1.7
その他定量的に把握する効果	CO ₂ 削減量 2,940トン-C/年 NO _x 削減量 16トン/年

4. 今後の事業進捗の見込み

- 多目的国際ターミナルは、平成16年の企業進出や荷役機械の設置に併せて暫定的に供用する予定である。
- 廃棄物埋立護岸は平成15年に着手しており、平成19年度の完成に向け、今後の支障となるものはない。

5. コスト縮減及び代替案の検討

【コスト縮減への対応】

廉価な荷役機械を用いることにより5億円のコスト削減を図る予定である。

【代替案の検討】

現計画による多目的国際ターミナルの整備が適切である。

6. 対応方針

1. 事業の必要性

- 姫路港背後圏は、兵庫県製造業において重要であり、取扱貨物量は同程度で推移している。
- 環境・リサイクル経済特区指定の動きやターミナル背後用地の企業進出等、新たな動きが出てきている。
- 船舶の大型化は変わらず進展しており、既存の最大水深(−12m)では入港できない船舶が、年間20隻入港する等不具合が生じている。

2. 事業進捗の見込み

- 平成16年の企業進出や荷役機械の設置と併せて暫定的に供用する予定であり、また着工の遅れた廃棄物埋立護岸も平成15年に着手しており今後の支障となるものは無い。

3. コスト縮減及び代替案の可能性

- 廉価な荷役機械を用いることにより5億円のコスト削減を図る。
- 現計画による多目的国際ターミナルの整備が適切である。

【対応方針(原案)】

事業継続

姫路港広畑地区多目的国際ターミナルは、船舶の大型化やコンテナ貨物の増大に対応した物流の効率化を図るものであり、地域振興及び発展を支えるため、その事業進捗が求められております。今後とも事業を推進し、早期の完成を目指します。